

自然観察NOW

No.3

野幌森林公園自然情報

発行：2015年6月7日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

5月の野幌の森は、ウグイスの声が森に響き、オオバナノエンレイソウなどの清楚な花々に満ち溢れていました。それが今は初夏6月、ふれあい交流館の裏の林では、初夏を告げるカッコウの声がさわやかに響いています。そして、エゾハルゼミの合唱の中に、森の中の花たちは次の花たちに夏へと交代をし始めています。今日は、次第に色濃くなっていく木々の中を歩いて、初夏の花々を見つめ、野鳥のさえずりにじっと耳をすまして、改めて野鳥の声を楽しんでみてはいかがでしょうか。

野幌の森に響く野鳥の声を聞く

◎ その声はだれ？ ～その声の判別法：「聞きなし」～

鳥の鳴き声からその鳥の名を知りたいと思いませんか？

鳥の鳴き声には、“地鳴き”と“さえずり”があります。

“地鳴き”は雄・雌とも1年中鳴いていて、夫婦や家族のコミュニケーションや警戒音などの役目をします。それに対して、“さえずり”は雄が雌を引きつけるための求愛行動のためと、雄が自分の“なわばり宣言”をして、他の雄の立ち入りを禁止するための信号などをいいます。それだけに“さえずり”の鳴き声は“地鳴き”より複雑です。

例えば、ウグイスの“地鳴き”は「チャッチャ」ですが、“さえずり”は「ホー、ホケキョ」。ハシブトガラは、“地鳴き”「チチ、ジージー」、
“さえずり”は「チョチョチョチョ」。ゴジュウカラは、“地鳴き”は「ツイツイ」、
“さえずり”は「フィーフィーフィー」です。

さて、今回は“さえずり”を聞き分ける方法「聞きなし」を紹介します。

「聞きなし」とは、私たちが鳥の鳴き声を人の声に置き換えて覚えることを言います。

たくさんの鳥の「聞きなし」の一部を紹介しますね。

(鳥の名)	(さえずり)	(聞きなし)
・アオバト	アオーオ、アオー、アオー。	会おー、会おー。
・アカハラ	キョロン、キョロン。	カモン、カモン、チュー。
・イカル	キーコーキー。	お菊二十四。
・ウグイス	ホー、ホケキョ。	法、法華経。
・キビタキ	ピリリ、ピーチュリ、 ピッピプリ、ピッピプリ。	チョットコイ、チョットコイ、オーシンツク、 オーシンツク。
・センダイムシクイ	チョチョ、ビー。	焼酎一杯グイー。鶴千代君。ちかれたびー。
・トラツグミ	ヒーヒョー、ピーヒョー。	さびしい、さびしい。
・ヒガラ	ツピツピツピツピ。	ちびり、ちびり。つめてえ、つめてえ。
・ホオジロ	チッピツ、ピーチュー、 チュチュチュリチュチュ。	一筆啓上仕り候。 札幌ラーメン、みそラーメン。
・メジロ	チチュルチチュルチーチー。	長兵衛、忠兵衛、長忠兵衛。 チリチル、ミチル。

いつも野鳥の姿を探すことばかりに満足せずに、姿は見えなくても鳥の声に耳を傾けると、その鳥は“何という鳥？”を知る楽しみにつながり、更にはその鳥への親しみも増すことでしょう。今すぐ「聞きなし」を試してみませんか？そして、自分のオリジナルの「聞きなし」も作ってみませんか？



(ツツドリ)

野幌の森の初夏の鳥たち

○ ツツドリ (筒鳥) カッコウ科 北海道(夏鳥) ※全国・九州以北で(夏鳥)

ちょうど今頃の季節、野幌の森の中から響く声。カッコウより早く初夏を伝える鳥。細長い尾と尖った翼。頭と喉・胸は濃い青灰色。腹は白く黒いまばらな横縞があり太い。雌には“赤色型”がある。「カッコウ」によく似るが小形。足指はカッコウの仲間に共通で、前2本、後2本。

(名前の由来) ポポ、ポポという太い鳴き声が、筒をたたく音のように聞こえるので「筒鳥」という。

(鳴き声) は、“さえずり”を「ポポ・ポポ・ポポ」を繰り返す。“地鳴き”は「ピピピピ」。

北海道全域の森で繁殖し、オーストラリアで越冬する。カッコウのように巣を作らず、他の鳥の巣に“托卵”して子育てをしてもらう。相手はセンダイムシクイやウグイスなど。

北海道で見られるカッコウの仲間は4種。他にジウイチとホトトギス。ホトトギスは道南のみ。

○ エゾセンニュウ (蝦夷潜入・蝦夷仙入・蝦夷仙遊) センニュウ科 北海道(夏鳥)

※本州中部以北(旅鳥)。国内の繁殖は北海道のみ。体は全体的に茶褐色基調の色彩。

(名前の由来)「センニュウ」は草むらの中にいつも潜んでいるので「潜入」。また、草むらの中を自在に動いて暮らしているその様子が「仙人」のようだからなど所説がある。

(鳴き声) は、“さえずり”が「チョッ、ピン、チャカチカ」と、繁殖期には夕方から早朝にかけてよく通る声で鳴く。その鳴き声が「ホトトギス」の鳴き声に似ているので、「エゾホトトギス」とも呼ばれる。“地鳴き”は「タッ、タッ」、「ツリリ、ツリリ」。

北海道の人は、この“さえずり”の鳴き声を“聞きなし”で、「じょっぴん(錠を)かけたか?」という。確かに夜通し鳴くその声を聞いていると、その“聞きなし”はなるほどと頷ける。

野幌の森の初夏の花たち

○ ホオノキ (朴の木) モクレン科 花の色：白色 ※北海道の他に、全国に分布。

初夏に樹上高く、上向きに大きな白い花を咲かせる。雄しべ、雌しべの数が多く、長い花軸にらせん状に付くことから“原始的な植物”と言われる。

(名前の由来)この木の葉に食べ物を盛ったり、包んだりしたので「包(ほう)の木」となった。

(別名)ホオガシワ。花は芳香が強く、高い場所の花へと昆虫を誘う。葉には殺菌作用がある。

特に甲虫が媒介する花。モクレン科の花は蜜を出さない。花にやって来る昆虫たちの目当ては”花粉“。花粉を食べにくる昆虫が仲人を果たしている。この木の花と虫の“共生関係”が、最も古い時代に成立したと考えられている。



○ マムシグサ (蝮草) サトイモ科 花の色：緑色

※北海道の他に、全国に分布。北海道のものは、「コウライテンナンショウ」と呼ばれる型。実は熟すと赤くなる。葉の上で花序を付ける。毒草。

(名前の由来) 茎に蝮のようなまだら模様があることから、「マムシ」の肌に見立てられた名。

ハエの好む肉のようは匂いを出して、ハエに受粉してもらう。成長につれて、雄から雌への”性転換“をする植物。株が小さい時は”雄株“、大きくなると”雌株“となる。

執筆 (道場 優 (どうじょう まさる))

★7月・8月の観察会

☆「芸術の森観察会」7月12日(日) 10:00~12:30 (集合：芸術の森入口バス停前)

☆「夏の森の観察会」8月6日(木) 10:00~13:30 (集合・解散：北海道開拓の村前)

